

歌唱
宗忠神

014664-000-8

特53-158

宗忠神（唱歌）

佐々貴四十一／編

M42

ABB-1096



特

黒住教傳道叢書

吉田文學士
安原文學士 合著

歌唱
宗忠神
全

第壹
21
年

要綱

此小冊は黒住教祖神階宣下五十年祝賀紀念傳
道の爲め發行せしものにして雖有教祖の御事
蹟を平易に五七の口調を以て最も解し易く解
きたるものなり

宗忠神

(上)

安永九年神樂月

冬至の旦岡山の

町程近き今村に

尊き人は生れたり

明治
42 9 30
肉交

二、

家は代々昔より

今村宮の神主

生れながらの孝心は

神が授けし比ひなし

三、

御年二十の若きより

露悪しき事行はで

神となるこそ現世の

孝の極みと決め給ふ

四

さるを文化の秋九年

父母つぎて逝きませし

嘆きのあまり御身また

難症不治の御病

五

臥床三年肉も盡き

力も盡きて今ははや

壽限短く見なければ

死後を神にと盟はれぬ

六、

いでや此世の永訣と

天照大御神天地神

家の御靈舍伏し拜み

死を従容と待ち給ふ

七、

あゝ人生を觀ずれば

酷き悲しき多かれど

死の悲しきに越ゆるなく

死に堪ゆるより酷きなし

八、

されど靈くしきは人心ひとこころ

よしや死しに勝かつ難たくとも

心こころ一ひと度たび轉てんずれば

悠々いろうくとして生死せいじなし

九、

無心むしんとなりし此際このまはに

浮うぶ自然しぜんの聲こゑとして

己おのが病やまいは悲かなしみに

身みを傷いためたる氣け枯かれなり

一〇、我平生の志こころざし

孝の二つにありつるを

今此儘に死みまがりて

道の一筋たつぐきか

一一、我孝道は束の間も

心を生かし身を保たもち

神の恵めぐみを有ありがたく

樂たのしみ暮くらすべきにこそ

二三、あゝ過あやまてり今いまよりは

心こころ、心こころを養やしなはん

かく觀くわんじては御おん心地こころ

唯ただ豁くわつ然ぜんと開ひらけ行ゆく

二三、ある日ひ家族かぞくの止とどむるを

強しひて浴ゆあみし、身みを清きよめ

豊とよ榮さか登のぼる朝あさ日ひをば

拜をろがみ給たまふ一いつ刹せつ那な

一四、不思議や元氣加はりて

日々快くなり給ふ

文化十有一年の

木の芽も春の彌生時

一五、やがて一陽來復の

冬至の朝日拜に

旭を呑むと覺されて

神人不二の御一體

一六、初めて天地生々の

靈機自然に得給へる

天命直授の御教の

神の道こそ尊けれ

(中)

一、天地の靈機得てしより

神に入りたる御心

病を癒やし道説きて

なやめる人を生け給ふ

二、我われや説とく道みち、天命てんめいの

浮うびの儘ままの極きまりなく

唯ただ一ひと筋すぢに天地あめつちの

誠まことの道みちを宣のたまふるなり

三、

智ち者しやも凡ぼん夫ぶも男だんも女ぢよも

貴き賤せん貧ひん富ふの別わかちなく

我わが持もち前まへを捨すてゝこそ

心しん耳にに響ひびく理ことばりず

四

凡そ天地の萬物は

天照る神の生みなせば

陽氣自然に充ち満ちて

生き通しなるものと知れ

五

人の五體の暖りも

神の陽氣の心なり

禊ぎ清めよ身の汚れ

祓ひ除けよ慾心を

六

清きよくすませば日ひの神かみと

己おのが心こころと一つなり

氣きを養やしなひてたゆまずば

心こころから身みも活いくべさざ

七

活いくるが神かみの道みちなれば

死しするは人ひとの氣け枯かれなり

陽やう氣きになれよ勇いさましく

任まかせ奉まつれよ天てん命めいに

八

昔むかしの心こころも形かたちなし

今いまの心こころも形かたちなし

形かたちを忘わすれ見みる時ときは

今いまもさながら神代かみよなり

九

心こころに神かみとなる時ときは

その身みもやがて神かみなるぞ

左京さきやうが瀬踏せぶみ致いたすべし

續つづいて來きたれ皆みな人ひとよ

一〇、かく説き來り説き去りて

月の二七の日を撰び

星霜三十有六年

道に參じて怠らず

一一、風にぞ靡く秋草の

慕ひまつりて來る人の

病、煩、邪、も

消れて誠の人となる

一三、賤か伏屋の遠きより

顯貴の門の近き迄

教化四隣に普きて

人々道に歸り住む

(下)

一、長き年月たゆみなく

神の大道一筋に

行ひ給ひ説き給ひ

御蔭かうぶる人無限

二、あるは一度の禁厭に

死せるも直に蘇生り

あるは一度の説教に

心眼頓に開け行く

三、實に有がたき御道の

絶にせぬ流幾千代に

傳へ給ひて日の本に

其の大元を垂れ給ふ

四、
かく御勤おんつとめなし了をへて

嘉永三年二月の

下の五日の朝あさまだき

天命てんめい安やすく神かみ上のぼる

五、
あとに誠まことの大道おほみちは

天照あまてる神かみの心こころにて

過去くわこ、現在げんざい、未來みらいにも

生きい生いくるころろ尊たふさけれ

六、安政三年三月には

神號宗忠大明神

文久二年二月には

神樂岡に鎮座りぬ

七、慶應元年卯月には

御勅願所と稱せられ

明けて二月從四位の下

神階宣下御勅あり

八、大道茲に明かに

日の大神の御光は

世界を照らし灼然に

御稜威はいよよ熾なり

九、あゝ明德は日に高く

靈驗月に新なる

神樂岡の松緑く

加茂の川瀬は水清し

以上

桑田無堂先生著

◎大西文學博士と黒住教

近

刊

小野彌太郎先生編

◎黒住教日々の勤

定價
稅價
貳拾五
錢錢

井上市藏先生編

◎黒住教入門

近

刊

附神言、天津祝詞

216

810

明治四十一年九月二十四日印刷
明治四十二年九月二十七日發行

定價五錢
郵稅貳錢

京都市上京區粟田口拾壹番戶

編輯兼

發行人

佐々貴 四十一

京都市吉田町百番戶

印刷人

土屋角平

京都市神樂岡黒住教會所内

發行所

大日本黒住教紀念傳道部

京都市吉田町

發售所

便利堂書店

冊は十部以上は一割引、五十冊以上は二割にて販賣

T-2

8